

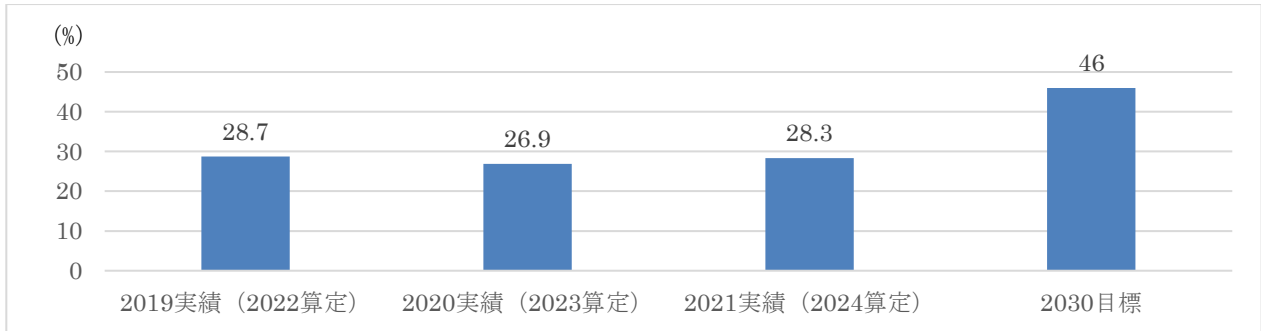


## 長岡京市第三期環境基本計画の成果指標と第一期間の振り返り

第三期環境基本計画における四つの基本施策（柱）の成果指標について、それぞれの基本施策（柱）ごとに、取り組みの中身とともに第一期間（令和４年度～令和６年度）を振り返ります。一部分野横断的取り組みについても、関連する柱の中で触れています。

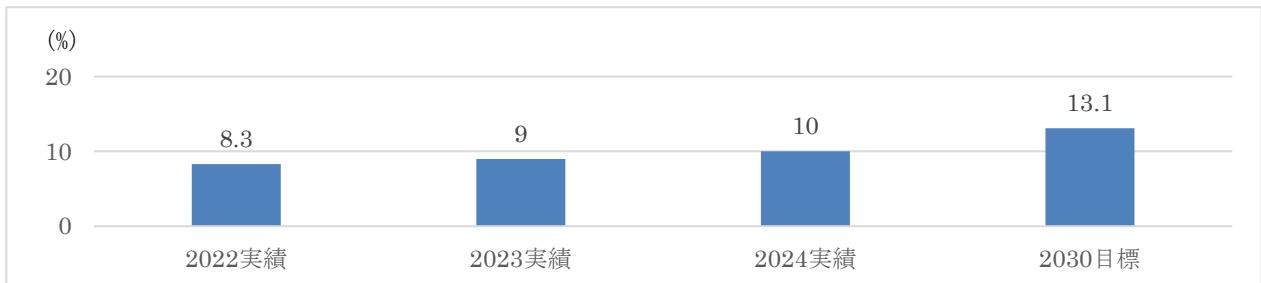
### ■柱 ① 気候変動対策（緩和・適応）～脱炭素化に向けた持続可能なまちづくり～

【主要指標】市域における温室効果ガス排出量 2013（平成 25）年度比 46%以上削減



※算定に使う統計数値の公表時期の都合により、3年遅れの実績となる。

【サブ指標】戸建住宅に占める太陽光発電設備導入率 13.1%

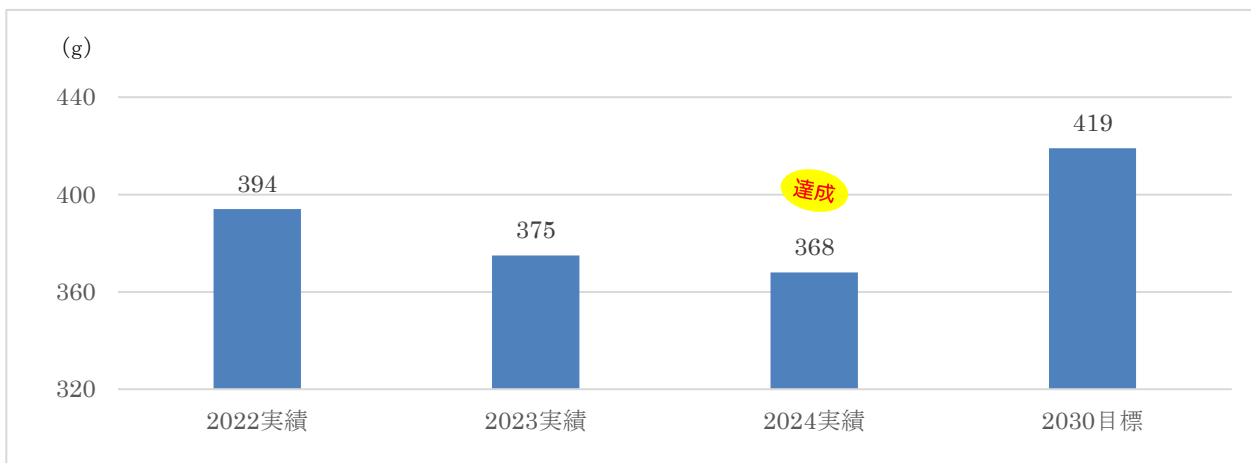


第一期間中には（令和４年度～令和６年度）、省エネや再エネ、また、気候変動への「適応」に関する各種啓発を行ったほか、京都済生会病院の移転に伴うはっぴいバスのルート増設など、公共交通の利用促進にもつながる取り組みを行いました。市民の初期投資を伴う気候変動対策（太陽光パネルと蓄電池の同時設置や電気自動車への補助等）には、COOL CHOICE 実践補助金による支援を行い、事業者と連携した取り組みでは、JR 長岡京駅東口駅前広場のゼロカーボン化を達成するなどの試みを行いました。一事業所としての取り組みも重要ですので、公共施設の環境性能の向上に取り組み、令和６年度には市内公共施設で初の ZEB Ready 認証を取得した建築物として、「健幸すぽっと のびのび苑」を開業しました。

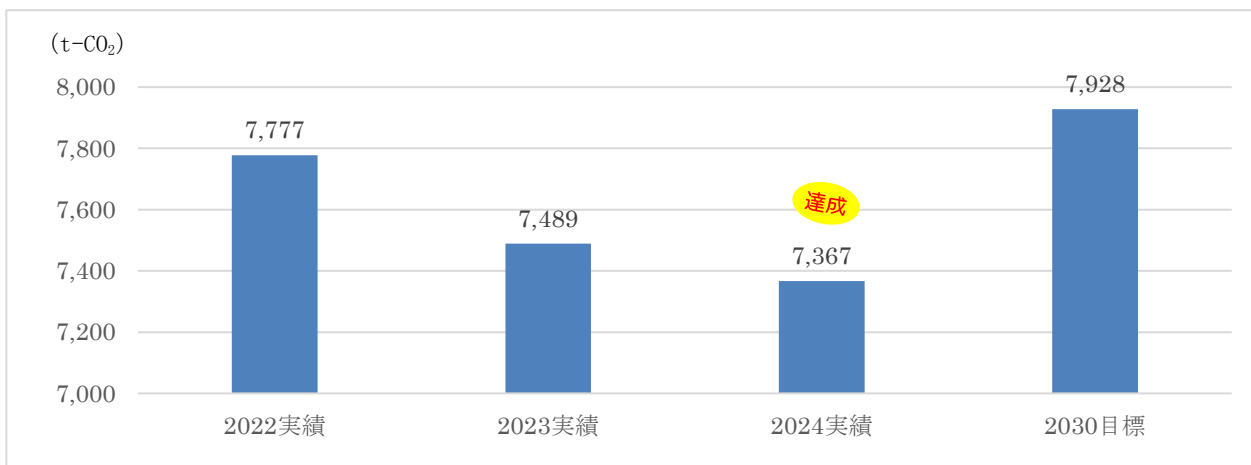
サブ指標については、2030 年度目標に向け、順調に右肩上がりの傾向を続けています。しかしながら、主要指標である温室効果ガス排出量に関して、府単位の統計数値の按分により算定しているところがほとんどであるため、脱炭素に向けた長岡京市の取り組みの進捗を知ることが困難です。脱炭素社会の実現という変革の大きさを考えれば、上記の取り組みに甘んじることなく、さらなる取り組みの上積みが必要との前提に立つべきと考えます。

## ■柱 2 資源循環～水と資源が循環するエコなまちづくり～

【主要指標】1人1日あたりの収集ごみ量（資源ごみ除く）419g 以下



【サブ指標】一般廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量 7,928t-CO<sub>2</sub> 以下

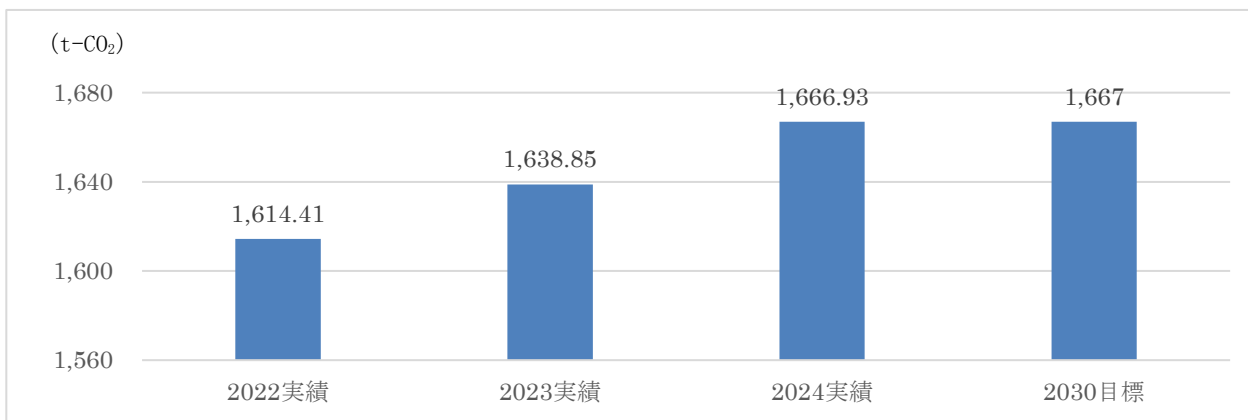


第一期間中には(令和4年度～令和6年度)、廃棄物の適正処理を進めるのはもちろんのこと、廃棄物の発生抑制や再生利用・資源回収の推進を行いました。近年課題とされるプラごみの削減に関しては、40ページに記載のあるマイプラレディ運動を推進し、ごみの出ない暮らし方を広めています。食品ロスについても大きな課題となっていますので、フードドライブ活動を行う団体を支援するとともに、出前授業等の啓発の場では、重点的に説明を行っています。リサイクル・リユース推進の観点では、中央公民館の拠点回収場所に新聞・雑誌用の回収容器を新たに設置したほか、不要品の譲り先を見つけるインターネットサービスを展開する「おいくら」「ジモティー」と協定締結し、市民に新たな選択肢を示すなど、利便性の向上にも努めています。資源循環という視点で言うと、水を大切にするライフスタイルの普及啓発や将来にわたり安全で安定した水環境の維持に資する設備維持にも努めました。

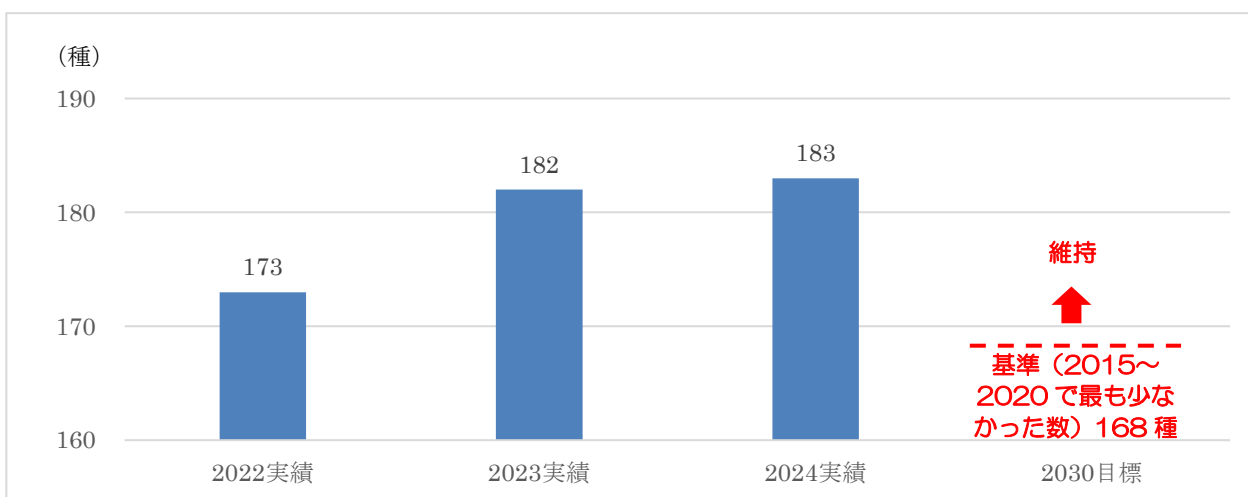
成果指標に関しては、主要指標、サブ指標ともに、令和3年2月から導入した「指定ごみ袋制度」の効果が継続する結果となり、既に目標値を達成しています。今後、関連する計画の見直しにおいて、目標数値の見直しを検討していく予定です。

### ■柱 ③ 環境共生～環境共生型社会の形成～

【主要指標】森林整備による西山の森林の CO<sub>2</sub> 吸収量 累計 1,667t-CO<sub>2</sub> 以上



【サブ指標】西山における植物調査で確認できる種の数維持

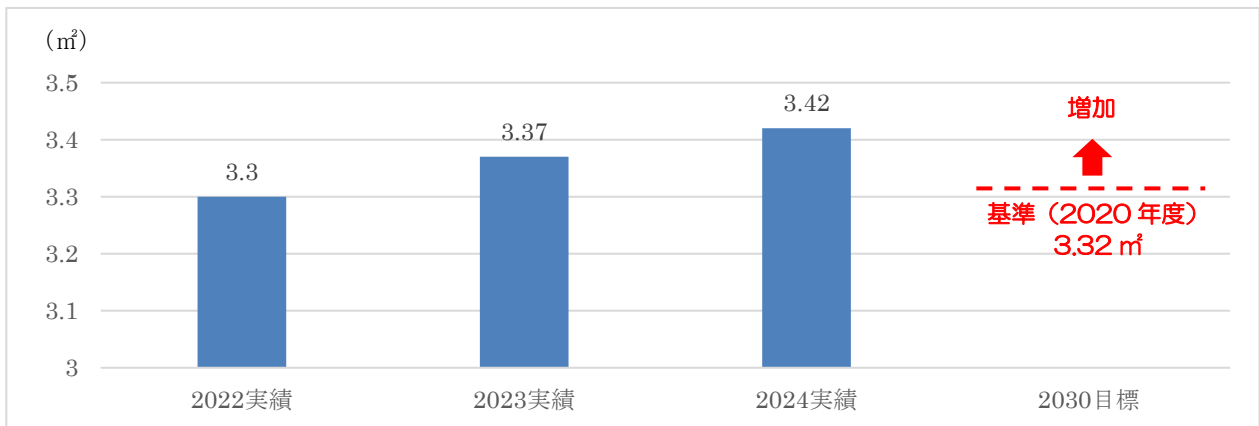


第一期間中には（令和 4 年度～令和 6 年度）、西山の森林整備を計画的に進め、西山ファミリー環境探検隊や学校と連携した事業など環境教育・啓発活動にも取り組みました。特に産官学等が連携する西山森林整備推進協議会による活動は全国でも先進的な取り組みとして評価いただいており、放置竹林問題など諸課題にも引き続き向き合っています。また、京都西山再生プロジェクトでは、ふるさと納税の制度を活用し、支援者を募り、カブトムシ・オオムラサキの暮らす森の再生を進めています。農業や水辺環境の整備事業においても、地産地消等の事業を推進し、豊かな自然環境を守る取り組みを進めました。

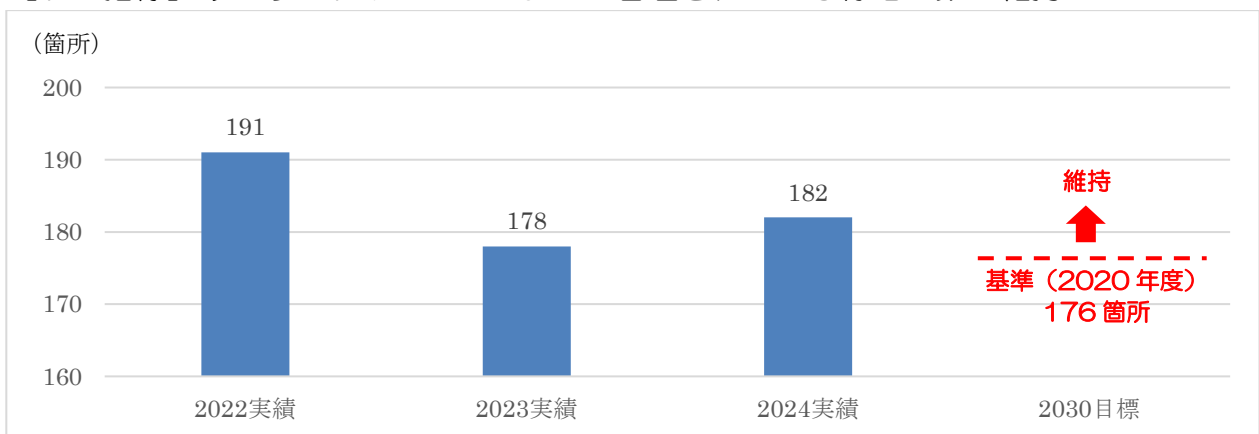
主要指標については、既にほぼ達成している状況です。今後、関連する計画の見直しにおいて、目標数値の見直しを検討していく予定です。サブ指標である植物種の数については、現時点で生物多様性の危機といった明確な事象を捉えることはできませんが、長期的な視点に立って変動を見ていく必要があります。

## ■柱 4 都市環境～快適で安心な都市環境づくり～

【主要指標】住民 1 人あたりの公園面積の増加



【サブ指標】みどりのサポーターによって管理されている緑地の数の維持



第一期間中には（令和 4 年度～令和 6 年度）、快適で安心な都市環境づくりとして、ハード面において透水性舗装や、バリアフリー化、電線類地中化のほか、一部グリーンインフラの活用も進めました。工事には外的な要因からどうしても遅れが生じることがありますが、計画的に事業を進めています。景観や、歴史文化資源の保存・活用という点も、環境の範囲という認識のもと配慮しています。公園では、2024（令和 6）年度に市内初のインクルーシブ公園である粟生畑ケ田公園をオープンしました。現在は、西山公園（第 3 期）の整備を継続中です。ハード面以外では、市民協働による緑化の推進策としてみどりのサポーター制度を引き続き運用しました。その他、住みよい生活環境の維持のため、530 運動の支援やマナー啓発、環境調査等の取り組みも行っています。

主要指標である「住民 1 人あたりの公園面積」は、計画策定時の基準年度である 2020（令和 2）年度と比べ、増加しています。今後も増加傾向の維持を目指します。サブ指標である「みどりのサポーターによって管理されている緑地の数」は、基準年度である 2020（令和 2）年度と比べると、わずかに上回っています。サポーターの高齢化に伴い、解散する団体もあることから、今後も水準を維持するため、サポーター確保のための取り組みを行っていきます。